



^ 13
2735
4 ↓



門 へ13
2735
4

學者必讀

後夜の夢

周濂平先生著

門人

五覽通

無曇鑑

全校

藏書

第三回

聖堂の靈談

栗之先生の靈系乳左太夫の精魂を撮して

彼が膏育を計從し、或いはとば坐中

の往還一同よと打く。大笑し曰

聖存老度よ。星地香存志め付

下

時五

想銅子光り輝き
火乃薦禱りと括く盡
あどすも儼よ中もべく又歎う
今是と嘆く藝云室の奴隸雅楚の牽改といふ
ぞ〜又早急法を以て細紐とする
る宋元以下志うりといふ古唐詩の言ある
所以なる代詩を以て科第を以て風俗
の豪傑英才の人とす〜その習俗の
は？ 是化名人も出来たりなり是聖学

の衰も〜て人品鄙劣は成〜嗃矢之李白知
豪が〜に雅思湧が如き〜。孩は一りの称は人
き漢を〜とえ〜。詩人の国家は益々あく〜。あ
ひあ〜と〜と知る人〜。然ると我は〜
も。結と依り文と属〜と。学官とらぬたるは他
弊風と見得り能〜と心は遠〜。その
心。然〜と詩又作〜と。よ〜とふ
よ〜あ〜。此の時を感〜。奥に〜。必

新雑しんざつくあくへ清教せいけうくけ清教せいけう雑ざつくと也。

浮屠うしゆ意志いしの少年せうねんと道みちすく時ときら。聖子日ぐり

おとへく。国家左平さへいの弊へい風ふう。威い無用むいようの倭やく

多おほふ。出来る。いん。凡そ。うち。老し。心ほ。遠く。

る。心も。一得え後ごの偏へんく。一得えり。来る。

そ。うら。宋の佐さ王子わうし始はく。聖子の多おほ教けうと心り

ゆ。心の一名な。その人ひとの心も。また。先代せんたいの

母ははも。比較ひかくす。一。聖せい子しと心る。一の先

宋学そうがくがり入いる。一五ごと心け。心り。一

初はつ發はつ林りんの心り。一の志定じやうく。然る。一

く。また。おの心り。一。今け又またく。心る。一。名なを心る。一

旁たがひの心り。一。庸おん聖せい也。今天子てんし中ちゆう

井いの心り。一。同どう日じつの心り。一。未みだら又また

知しる。一。名なを心る。一。必かならずま。心る。一。遠とほく。一

五ご。天てん氓まう等とうが心り。一。俗じやく人じん風ふう流りゆうと心る。一

終しゆうる。一。け。除く。心る。一。文ぶん昌しやう早さの心り。一

予は是れを口を開く。

五三の侍や天民と並馳すことども。

この著述す。不侍活の如き程成り

へ。程あることども。以て教す

る事なきことども。さすことども。時

無事の時。然る事。弟等の子弟。

其名を慕ひて。其名を慕ひて。一廉

の侍人と成り。まよ。孫子己の家業を

不風流と云ふ。代にお侍の志望を

失ふ事。車教り。子存を。田舎まで

持帰る。結願侍。名を。輩多

事。を粟と先生。の教。を。元

子。古今の侍人を評する。如き。元

より。その。を。備へ。後。

受業

野徹芳

識

浅草此精諺

宋紫石 車影のくま 宋岳のまはを侍 一

写之と辞 ト 雷の涼傘の僑居の向け

師身睦 ト 移の酒壺と烟

文趙が揚とえぬ ト 肝とあふ

人何れ ト 侍等一体心然 ト 画と

望む人 ト 先謝礼の多 ト 心中 ト 斗

由 ト 画の出来 ト 自 ト 速戻 ト え ト 涉 ト ま ト 元

来 ト 仕 ト 給 ト あ ト る ト 月 ト 仙 ト 城 ト 子 ト 画 ト 家 ト の ト 通 ト 繋 ト と ト 成 ト り ト 子 ト 付 ト け ト 書

く ト 活 ト え ト 大 ト 坂 ト の ト 人 ト と ト り ト 云 ト 月 ト 仙 ト 城 ト 子 ト 画 ト 家 ト の ト 通 ト 繋 ト と ト 成 ト り ト 子 ト 付 ト け ト 書

あり ト 名 ト 承 ト り ト 乃 ト 比 ト 子 ト 付 ト け ト 書

何 ト 卒 ト 出 ト 画 ト 一 ト 枚 ト 湯 ト 心 ト と ト 心 ト 中 ト 子 ト 斗

仙とんねんその人あまの並なみくああくくくく。後のちの表あらわり
出い一いつ投な出でききくくくく。後のち人ひと厚あつく

礼れい附ふ。懐くわい中ちゆうくく。金子かねこ五ご百ひゃく之の出でし

くく。有あ仙せん是こゝろととくくくく。大おほ子こ脱だつ心しん痛いた入いる

るる。換か授じゆ呂りよ今いまききくく。たたるる。降ありり。礼れい画がをを

くく。かかくく。おお子こ徳とく幸さいくく。名な后ご上じやう人にんとと云いけ

くく。彼か人ひと顔かほ免めんとと改かめめ。くく。おおのの先せん生せいのの作さくもも

くく。私わたくし我が画がのの言こと意いいいええくく。ねねせせだだ。由よし高たか名な

由よし能よくく。由よし那な中ちゆう。由よし那なのの球きゆう也や。くく。礼れい附ふの

多おほ少すくくく。画がのの遠とほくく。りりくく。ああのの表あらわささる

賣う抽ひくく。くく。くく。ああのの中ちゆう。中ちゆうももてて求もとめめくく

くく。くく。くく。是こゝろとと以もつてて。志こゝろををいいふふ。里さと

右みぎののぎぎののけけ画が私わたくし受うけけ。ああのの如ごとくく

とと。画がとと。金かね子こ名な房ぼう。くく。何なにりり。くく。

文ぶん趙ちゆう。ああののかかるる人ひと。出い金かねくく。ああのの如ごとくく

へへききくく。待まちりり。くく。水みづ。はは。紫むらさ石いし。是こゝろとと。月つき仙せん城じやう。くく。

と歎息

我ら此を先ずしゆく。席画とりしゆり。
画土よ元来染るるしゆり。五日一ある
一山ふど。云傳く大しゆり。けく出
るありし。宋末の以しゆり。今の産
画の洒落の如くたりと見えぬ。我らも
畫舟以の画の望る画を多しゆり。殊
言舟とあり。流く実ある画之中以

席

探幽と云へる。子利出るる。任を筆子
任を。氣性と云へる。席画と云へ
る。如く。探幽存と云へる。洒落の
の画の實を。老年より及ぶ。一向洒落の
よ成る。大に。此の。海画
先づ。け。山。日本。の。洒落。を。染る。る。を。
怪。む。又。日。画。と。云へる。三
年。し。て。各。人。の。成。候。と。云へる。一

兩年。彦号と持く。悲老子成る。此二交
と来の出来物。何とも伴の付らざ
る。と。

真付橋、識

白山乃神談

可山孩米元章。子別をそのち。たくらむ。あはる
大家子。石出き。水。二百石の俸。源と持。甲曹
と持。七。繪一本のま。と成。り。水。を。元。章。が。室。お

孫子ま。出放。歌。と。四。石。一。區。

と。と。の。毒。一。畝。

々々。顛。風。不。羈。の。心。也。此。つ。ら。ぬ。孫。子。よ。見。く

う。り。り。る。因。情。平。と。後。孫。の。話。向。い。う。ま。と。康。じ

所。元。章。と。ち。ま。は。り。し。れ。ぬ。と。思。は。れ。ば。

き。一。当。り。話。向。も。出。ま。じ。な。忘。れ。と。し。て。

現。形。と。ぬ。ひ。元。章。子。偶。々。曰。中。方。先。子。米

うきや

す。玉鳳あは上代三年三蹟とぞ稱えたる。
人ぞ金銀布帛の類すきつて。録と初を

一例あり。中代王家の武徳衰へて。昔の

中静あり。ざり。さるの書藝はなほありし

と。たもりのあり。そ。けもりの倫あり也

か。さ。け。あ。も。太平のい。さ。も。あ。け。非

武實仁は依くして。下。塗。山。の。苦。と。昔。と。ぞ。万。民。を。平。を

あ。も。の。も。り。今。の。三。百。年。尚。く。玉。鳳。の。武。徳。を。失

あ。ひ。侍。又。は。画。茶。を。評。鞅。ぬ。と。能。き。学。ぶ。と。ん

上。貴。人。侍。候。し。り。下。士。庶。人。よ。る。迄。す。べ。く

同。一。括。り。さ。る。の。と。あ。り。ぬ。是。と。も。平。の。一。察

と。云。米。あ。ら。ぬ。と。考。ふ。言。録。は。石。抱。ら。し。む。と。あ。り

し。七。代。の。石。抱。り。も。右。方。の。為。代。正。治。の。時。に

し。し。徳。侯。の。中。の。み。り。二。つ。あ。ま。大。書。を。評

録。の。由。代。より。七。家。と。稱。し。七。代。の。補。佐。の。故

家。を。厚。く。と。右。括。り。さ。る。の。先。ひ。あ。ら。ざ。り。し

十七

十一

當君兵よ七家の老后つりよ押りひたるや米あ
 と二百石の侍録よ抱りよのこあふべ。徳志よ格
 とし。是榎持せらるるに胸あふる言
 遠く。孝代勤功の侍ま。おらん所らん侍ま。仕
 方とつべ。君系よよ執ん。承ある指
 南とらけあふ。録と初るよ及て况徳代積
 功の志厚のめ。是榎持せぬ。何ぞ殿
 仰山ある。既し徳志とつりよと立あふ

勤仕するもの侍る二百俵の牌斗終り。祝書
 藝と表契結糸る。録取。今派布帛
 の初め。竹子依。是我古代よりの只
 信。又承あ強号の能。大武家のよ。於
 く毫も買る。今考。徳志
 のう。第遠と。今斯。古来の古代。あ
 ぐ。一筆徳。や。屏風。其の
 風。あ。出。か。の。せ。ま。は。屏。風。其。の

少といちんを。米あ今も名ごとくし。どまらる人屏
 風魚物とまじら^{まじら}。麦や^まだ。たぐ屏風魚物し。て。業也
 ら。んも。賣物とまじら。米ああれい。早^ち舗子袋ら。ま
 縁とく。石抱ゆふ。乃だぬり。し。ふ。上者
 小賣女の信又。して。坐^ままの杖と費。或は信
 年^下彩智の筆と露。一。古先祖より。致しゆ。天
 縁と家物。田^いまを。捨ゆふ。か。一。場。
 あ。一。一。米あ。と。烈^い起。一。一。た。は。侍。成。し。水

ごとその志の中。一。世の利達富貴を希^まふ
 人。浦山。一。一。も。押^おり。ひ。致^ちひ。さ。し。ふ。む。ら。め
 三。あ。ん。志^しま。さ。す。也。又。我。主。の。古。風。を。あ。り。年。入。る。
 人。と。群。を。あ。り。さ。し。ゆ。一。我。を。を。致^まく。と。し。て。必
 先^まに。あ。り。し。ゆ。一。一。た。り。し。ゆ。一。一。は。あ。り。し。ゆ。
 昔^むの。事。と。し。て。丁。字。子。ま。ゆ。ひ。一。一。と。借^かり。ま。さ。り。中。に。
 業^まと。あ。り。し。ゆ。一。一。一。ゆ。た。り。の。ま。し。ゆ。一。一。

可山文士の花の羊毛茶を試く。教^{かん}の^し海^う海^{かい}也

ていんさき へいさき

庭を宰。茶帯が... たる。各々

難を巧みあり。実子當代特等の能あり。然

して白山のけしき云々。古例あるや

志子。或君の冠や... 亦は...

切さうしたる。大乃の衰を致すの... たり。

既子但来... 保山君... 石出...

親和も弓術... 琴鶴君... 冠や...

り。志子但来... 武家の用...

り。志子但来... 武家の用...

り。志子但来... 武家の用...

り。志子但来... 武家の用...

り。志子但来... 武家の用...

友人

未足奇

織

矢の食れ星談

錦成先生蛆蠅のおまき... 自...

志取... 文昌星... 先生

代の儒者... 字画の名...

代の儒者... 字画の名...

あり先を特きの足儀より。相儀の如くせらる
新し。あふの世にあらば。まつ享保己来の人
おと平んよりよく考へん。才徳兼備する人
減しか。いんや。家名の事ト取り。人等
個々なる。元来世皇は必と侍者と違ひ。別
湯家と立ざら。い。き。り。是。大。は。你
各ある。も。既。子。は。先生。仕。人。の。内。難。雙
去。勤。り。い。り。只是。至。家。を。言。ひ。る。と。皆

一として。今の儒者の自慙。驕慢の心と格別。是後
先生。別。子。傷。友。と。し。表。向。の。格。式。へ。少。く。民。衆。に。法
を。示。す。は。其。の。教。へ。他。は。是。と。も。中。に。あ。る。と
凡。く。作。せ。終。ぢ。と。も。な。り。し。も。何。ん。あ。ら。ま。る。に
も。い。い。は。ま。る。と。い。ふ。先生。の。事。は。神。々。と。い
敷。と。い。ふ。及。び。及。び。及。び。神。々。と。い。ふ。和。訓
と。施。疑。獄。と。い。ふ。家。國。の。古。例。と。引。漢。土。批
あり。お。合。せ。り。は。言。ひ。ま。る。と。い。ふ。の

傷志母の心存り思ふ。我子鳳岡先皇卓著
 豪邁の志性也。傷志の幼少を云く礼其の類信也
 也。傷志の建々々々。極致。傷乃烈記也
 定り。侍学する老の面目以上。之を大位
 階格式あり。少年の内疑言する。母
 成自然と何れも事ざり。故も子成へり。か
 く成り。一々早急制あり。の古法を懐也
 ひ。一々あり。下々。勤め。例を

朝夕する。如く。怪きか。如く。あり。水とをま。てり。あり。位
 階。字り。く。年。式。も。も。成。例。十。朝。夕。す。る。も。も。難。く。
 又下。下。下。下。傷。士。才。徳。備。り。た。る。を。か。一。龍。素
 豪邁。く。と。く。ど。も。礼。法。子。欠。る。り。り。も。も。雨。露。の
 子。と。任。た。だ。右。宰。事。實。之。と。く。ど。子。も。も。か。一。
 中。介。子。遷。が。等。の。結。成。の。論。あり。仁。徳。中。徳
 子の。才。も。も。家。政。の。身。の。形。も。も。

代子存く令名をく
あつちん 新井世定志隆

曲ありき
えん 國家のまこと胸

そのうち兼山純卿が寄る
えん 一巻の蔵又ありと之を

程久きり多し
えん 此れめけらるるゆゑ

若又彼後子ありし
あつちん 一巻。此之が儒俠と言ひしあり

も
あつちん 山本四六と朝らるる宝齊の海原

妙子程と揚と何とみ出
あつちん 一巻。遠く宝齊とて唄

小ころ。其解の垣垣の待より久し
あつちん 又贅語を

曹子伯先生のちどめ志教とありし子万の困厄
えん

既子百日書きたりし
あつちん 時多付大人の儀

依り
あつちん 冠遇とありし

多るものありし
あつちん 方く厚の地を称受

赤ら子媚び囊埃を尖税
あつちん 一巻。看果

赤め程く子程程きり
あつちん 志子。大人不元の資情を後

大海宮の儀
あつちん 寓子先生の才を惜

悪く
あつちん 志教

とてた今下あけまは合々あつあつに借式先生かいはん命いのちを
のめらうと借る肉子うち。盡光じんこう一字ひつよちちと白しろ
字あじのめく。文昌ぶんしょう早はやの姿すがたへんをば只ただ中ちゆうに
声こゑとて曰い我われ又また是こゝより雞けい作はの法はふ沙さ。石田いしだの祝いわ
仁録にりく吾われのぬ。此こゝのむき人の八十はちじゅう畑はたけひよかたうに
るを呼よ出で。好このんく陣じんとあり。國くに学がくを唱となめ
る。嗚あ呼あ人ひと世よにまあまを楯たてとてく。まあく
能よ借か款くわんとよむ人ひと。又また李り筆ひつ筆ひつを死しやうとて養まかふ

免めんの事こととらり。あま。つめり。とて
ひ本ほん朝あさの事こととて借かる。能よと物もの結むすと業わざとて一ひと名な
と書かく。合あ涉せつとほ。う。筆ひつの字あを推おす。せ
海うみとせんとり。声こゑもかきう。う。まゆるとドロ
よ如ごと本ほん子こニヤギリ。是こゝ因よ清せい年ねんうまのまへ。ま
あがまをけり。

後表の事下終

島田藏書

下
冊

